

和蘭救破船人法

✕
19

Kitasato Memorial Medical Library

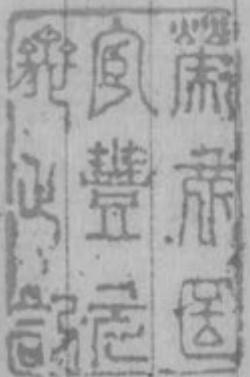
F
才-29

和蘭救破船人法



和蘭

救破船人法



人間緊要ノ發明及ヒ其發明者ノ名譽今ニ至マ
 テ世ニ彰然タル者多シト 雖モ此方法ノ發明ハ
 缺ク可ラサルノ第一ニシテ各譽亦之ニ次者
 シ其最大ノ目的ハ人命危難ノ極ヲ救ヒ而人
 ヲ我同社ニ容ル是ナリ○此方法ト其粧置トヲ
 議スルハ吾人ノ為ニ懇切ノ説話トス之ニ因テ
 我海濱年々ノ破船及ヒ海中ノ不幸全ク免ル能
 ハサルモ必ス其患難ヲ減スルニ足ル且荒海

558.84

Or

No. 3224

12 019



富士川文庫

3545

船ヲ碎キ財貨水ニ沉ムノ際々々方テ亦災ニ圖
スルノ粧置ヲ以テスレハ同船ノ輩ヲ急力無フ
シテ飛浪ヲ渡リ更ニ陸ニ歸スルヲ得可キナリ
○是故ニ吾同國ノアインデリス、シケール、ボール
ム、欲千七百八十一年以來世ニ彰々タルカペル
止欲ノ浮囊ヲ補正シ且ツ自ラ他ノ各種ノ浮囊
ヲ祭明シタルハ實ニ恐感ス可キノ一事ナリ又
其祭明ノ有力ニシテ世ニ裨益アルハシケール
ボールムノ著ハセル「マエステイトロイ」書ニ
記シ或ハ千八百二十年ニ方テ「ハールレム」地ノ
文學社ノ「エールメタル」書ニ裨益ヲナセル者
或ハ「ハールレム」ノ「テントーシステル」リシク
ニ世

裨益アルヲ集メノ「メイル」書ニ類ス但シ
其金貨ノ圖ヲ其書ノ等ニ由テ人ノ知ル所ナリ
○我國人ノ知ル力如ク貴重有徳ノ一二人千八
百二十四年此浮囊ヲ我濱汀ニ備エタルハ世ヲ
憐ム所ニシテ亦恐感ス可キノ一事ナリ○此一
二人其世ヲ愛スルノ標的ヲ我國人ニ講明セル
ハ亦恐感ス可キノ一事ナリ其講明タルハ人
ノ困難ヲ救フノ確証ニ記シ以テ人ノ千八百二
十四年ノ奔濤ニ苦メル不幸ヲ圖シ一ハ其裨益
確證シテ已ニ濱汀ニ備エル浮囊ヲ圖シ以テ
己カ從事者ニ講セルニ四方ノ人來リ集テ其講
明ヲ補助セサルハナシ尔後直ニ人其範説ヲ賞

譽シテコソツテルカムノ國人ヲ令シ南和蘭救
法社ト號シテ一ノ社盟ヲ倭テルニ從事スル者
少カラス○今此社盟ノ大緊要ヲ倍世ニ公ニセ
ニテ欲セハ學士須ク其善説ノ一二ヲ基トスヘ
シ且社盟此術ヲ行テ此年ノ風波ニ破船セル數
輩ヲ救リ是蓋シ此術微セハ必ス死スル者ニシ
テ我輩此良法ノ有益ニシテ謬誤ナキ悲憑ヲ
願フニ由テナリ

此社盟仁愛ノ標的ヲ以テ行フ所ノ法術ハア
テリスシケールボムノ補正セル粒置ト其自
ラ發悟セル粒置トニ本ツク故ニシケールボム
トノ發明ヲ倍人ニ公ニスルハ我輩ノ學士ニ於

テ最良ノ事件ナリ由テ六發明ヲ究ント欲スル
者ハボウトス子トテ切斷スル材ノ義乃チ及
ヒアラシムノ都ロントニセイニエト書肆ノ
詳ニ於テ上梓セル小冊子ノ紀事トニ就テ之ヲ
探索スル寸ハ應ニ彰々トシテ其理ヲ究ムルヲ
得ヘシ

困苦ノ際ニ方テ舟中ノ危難ヲ免ニハ先ツ宜
ク謂フ所コトニルボムハ浮囊ヲ注目スハシ
○第一圖及ヒ第二圖ハ二箇ノ浮囊ヲ示ス其長
サ凡ソ和蘭ノ七十五ドイハ其幅二十二ドイハ
ニ丁ル○此浮囊ノ一二ヲ舟ノ大小輕重ニ隨テ
種々ノ別アリヨル材ノ線是ナリトニ置

キ若ハ之ヲ其空處ニ置ハ甚度ノ際ニ逢フ_ル雖
モ其沉ムヲ防クヤ必セリ○從前製スル木箱ノ
浮囊(材ヲ以テ之ヲ製スルハ久ヲ經テ朽チサル
カ故ナリ)ハ巴カ自重ニ比スレハ十倍以上ノ重
キヲ浮ル_ルカヲ又百物ノ自重水ノ自重ニ
勝レルヲ以テ物水ニ沉ムノ理ニ由ハ自重一ホ
ンドノ浮囊間應ニ十ホンドノ重キヲ使テ沉マ
サテシムルヲ得ヘシ是故ニ八十燗ノ軍艦燗及
ヒ火藥銃丸ノ類及ヒ「エクネパーデー」_等等安ク
之ヲ載スルト雖モ船ト其住トノ自重水ヨリ甚
タ重ラサレハ船ノ大ニ比スレハ僅々ノ浮囊ニ
シテ其沉ムヲ防クニ足_ル一旦船中全ク水ヲ充ル

ト雖モ亦然リ○者官此サ_レノ諸物火藥銃丸ノ類ノ自
重ヲ查照スレハ此理ヲ會スル_ル易シ○船水ヨ
リ重ラサレハ唯之ヲ浮ル_ルノミナラス船中ノ諸
物ヲノ盡_ク之ヲ水上ニ浮ヘシム可シ○故ニ水上
ニ浮フ櫓_ノエクイパーデー_トイガーデー_ト及ヒ
是等諸物ノ自重ト水ノ自重トヲ測テ宜ク其對
稱ヲ見ルヘシ又燗銃丸火藥及ヒ銅鉄ノ諸器及
ヒ船ノ甲板_ノ在ル_ル品物ハ其自重遙ニ水ニ越
タリ故ニ軍艦ニ水ヲ滿レハ唯僅ニ其一二分ヲ
浮ル_ルヲ得_ルノミ
シケ_レルボ_シ我國ト_コンド_シノテ_リム_ス
トニ於テ試驗セル法術ニ基ツク_ル此照憑ニ

據ハ適宜ニ此浮囊ヲ粧ハ甚麼ノ事ハ雖モ沉ム
能ハサルヲ證スルト難キニ非サルナリ○船中
任幾何量アルヤヲ查驗シ尋テ船中諸物ノ自重
ヲ考定スレハ此說ノ謬リナキト益々人ニ明ナリ
○船ノ行ハ自重ハ水ヨリ輕キトシケールボム
已ニ之ヲ證セリ故ニ之ヲ浮シニハ船中全ク水
ヲ滿ルト雖モ唯モ唯モクイバーゲトロイガーゲト
及ヒ船中鉄器ノ自重ヲ量テ其沉ムヲ防クニ足
ルノ浮囊ヲ行フヲ要トス
故ニ人舟中幾何量ノ任アルヲ辨識スル寸ハ其
沉ムヲ防シニハ亦幾何量ノ浮囊ヲ要スルヲ知
ヲ得且ツ其浮囊ノ力ヲ之ト舟ノ外面ニ着スルヲ

リハ之ヲ其内面ニ着スル其力ヲ必ス應ニ強
カルヘキナリ

此浮囊ノ第一ノ用ハ之ニ由リシケールトスヨリス
ルトブトバルカスト共ニ舟ト等ノ危難ヲ免ルニ供ス
第一圖ハシケールトヲ横斷シテ其内ニ浮囊ヲ
置ルヲ示ストハ圓形ノ浮囊艇ニ向テトボトテ
ニト輯ト者ト横斷是ニ上ニ安シ其裁口ヲ示ストハ
方形ノ浮囊ノ内ト下ニ置テ其側面ヲ
示ス○其之ヲ船ニ置テノ法ハ毫モ難キ所ニ非
ス唯務メテ船中一時ニ之ヲ置テ良トス尤側
ハ已ニ置テ右側ハ未タ置サルカ如キ遅速アル
可ラス○尋常ノトスルトフト使テ危難トカラシメン

尋常襦衣ヲ着スルニ異ナラス

破船ノ輩第四圖若ハ第五圖ノ浮囊ヲ粒ヒ去ハ

泰然トシテ奔濤ヲ堪止而ノ何レノコギトシ

孺識輝ノ伴綱運ヲ失ハサルヲ急ナリトスルヤ

亦悠然トシテ判ス可ノ三何トナレハ人恒ニ知

ル如ク人身ハ水ト同量ノ自重ナル力故ニ唯僅

ニ其頭浮ルノ浮力ヲ要スレハナリ故ニ頭ノ沉

マサルニハ和蘭ノ七ボンドヲ浮ルノ浮力ヲ以

テスレハ全ク足りトス○是ヲ以テ和蘭ノ十ボ

ンド乃至二十ボンドヲ浮ルノ浮力アルカバ

ンドルヲ着シ若ハ八ボンドヲ浮ル浮力アルト

イリフヘイヅヘストヲ着スル破船ノ輩ハ其浮

力已カカ危難ヲ免ニハ殆ト餘リアルヲ以テ仍

自ラ一二ボンドノ兵糧財貨ヲ負フト雖モ亦災

害無ルトナシ○此二品ハ殊ニ幼童ノ水ニ没セ

サルニ便ナリ此衣微セハ幼童ノ水ニ溺ル者ハ

必ス將ニ死地ニ至ルヘシ○其他此二物ノ確著

ノ緊要ハコトクハ人ノ之ヲ着スルニ有リ彼レ

己ニ之ヲ着スレハ彼レ常ニ慣ル如ク危難ノ際

夕速ニ船ヲ遁レサルモ暫ク船中ニ留テ諸般ヲ

注意スルヲ得ヘシ

其他輪状ノ口ツデングアノイ人救義アリ是船

ヨリ水ニ落タル人ニ之ヲ投シテ之ヲ救フニ供

ス此浮囊ハ許多葦ノ紐子ヲ備フ其紐子ノ端亦

各扁圖ノキヨクヨ着ス故ニ之ヲ水ニ投スレハ
 是カ為ニ其上ニ浮フ由テ其表面ヲ塗ル者ヲ取
 テ舩ヨリ水ニ落タルノ人ニ投スレハ人其粗子
 ノ一ヲ固持シテ以テ溺レサルヲ得○此浮囊ハ
 其大小ノ異同ニ從テ和蘭ノ二十ポンド乃至四
 十ポンドノ重キヲ浮フ故ニ又三人四人ノ水ニ
 沉ムヲ防クニ足ル
 コト一ベルレツヂニクブトイハ箴シタルコトハ
 箴ヲ除クノ外ハ第六圖ニ異ナルアラス此第七
 圖ハ之ヲ粒フ者足箴ヲ踏ミ午浮囊ヲ握テ水上
 ニ浮ミ水面ノ線ニ在ルヲ示ス○浮囊ヲ握
 リ箴ヲ踏ムト己ニ此圖ス如クスレハ荒海極テ

甚シト雖モ之ニ浮フト毫モ難キニ非ス然リ而
 ノ此粒置ハ足箴ヲ踏ムノ助ケアルヲ以テ其便
 用遙ニ他ノ方法ニ勝レリ
 預メ種々ノ危難ヲ防キ且ツ破船ノ際タ生命ヲ
 全フメ其計具ハイデシヨ失ハサラシメニカ為
 ノ其他馬ト家畜ハトヲ浮ルノ粒置ヲ究ム此法
 ニ由テ馬ヲ粒ハ破船ノ輩之ニ騎テ其死ヲ免ル
 ヲ得ヘシ○馬ヲ粒ヒスル筈八圖ノ如クスレハ
 壺ニ馬ノ沉マサルノミナラス人之ニ乗ルト雖
 モ其重キヲ覺ルコト無フメ之ヲ負フ○ハルナス
 馬具ノ詳ニ類スル此浮囊ハ其浮力騎者ノ上躰勝
 上リ以テ浮ルニ足ルヲ以テ馬己カ重任ヲ覺ルサ

ノ理ハ推テ會ス可キノミ○此ハ浮囊トリ之
ヲ馬ニ搏スルノ法ヲ示ス蓋シ圖スル所浮囊ノ
部浮テノノ点ニ十ニト雖モ馬水ニ入ハ浮囊ノ
後部浮テノノ点線ノ高キニ至ル故ニ騎者之乘
レハ其重量衡平ヲ得○浮囊中間ノ凹處ハ騎者
ノ脚ヲ入ルニ供ス但シ其足ハ左ノ麻繩ヲ鑿ス
馬ノ重任ヲ知サルハ此恰好ニ由テ後部ノ浮囊
其重キヲ支エテ衡平ヲ得ハナリ○此ハ草紐
紐ナリ之ヲ以テ浮囊ヲ馬ノ兩側ニ固着ス夕ハ
腹帶ナリ此ハ草紐ナリ是浮囊ノ後部ヨリ走テ
鞅ニ至ルハ絞紐ナリ之ヲ以テ浮囊ヲ胸ノ兩側
ニ固着セシメ且ツ馬ノ肥瘦ニ隨テ之ヲ廣狹ス

ルニ便ニスルハ草紐ナリ是腹帶ヨリ絞紐ニ搏
ス○馬水ニ沉マサレハ其泳ニ勞セサルヲ猶百
凡ノ獸ニ於ルカコトシ然モ奔濤烈風ノ際夕ハ
靜然タルヲ能ハス故ニ人之ヲノ其思フ所ノ處
ニ行カシメシニハ必ス轡ヲ着セスニハアラス
○我爰ニ示ス所各種ノ浮囊ハ皆シケールボ
ムノ糞悒ニ從テ定ル者ナリ然リ而シテ其鴻益適
ニ昔時世ニ在ル者ニ越ルハ其浮力ノ尋常ナラ
サルニ就テ考フ可ノミナラス今水ノ自重ヲ定
テ千トスレハキニクノ自重ヲ二百四十トシ浮
囊ノ自重ヲ九十トスルカ如シ仍ホ且ツ暴劇ノ
事件アリテ浮囊穴ヲ生スト雖モ能ク其浮力ヲ

保ツヲ見テ知ル可ノミ是氣ヲ充ル昔時ノ浮囊
今ニ至テ全ク行ハレサル所以ナリ
吾風箏リレケイフト气球トヲ示シテ以テ此説話
ヲ終ル可シ風箏ハ船埠頭ニ臨テ着岸スル能
ハサルノ時線ヲ濱ニ引クニ便ナリ气球ハ僅々
一二セユンドニシテ書ヲ海濱ニ送ルニ便ナリ
○風箏ハ大囊ノ一種ナリ第九圖ノ如シ常ニ之
ヲ張シメニ力為メ其底ノ裏面箴スルニ蘆ヲ以
テス○囊中許多ノ小气球ヲ充ツ其小气球ハ吹
テ之ヲ張ラシメ直チニ復タ緊搏シテ充ル所ノ
氣ヲ使テ洩サシラシムル者ナリ○シケールボ
ーム大小二種ノ風箏ヲ製セリ其夜ナル者ハ淺

行舟トニテシケールボガニ用ユ此ノ充ルノ小气球
ハ大抵五十箇ニシテ足り其大ナル者ハ深行舟
ヲシケールボガニ用ユ此ノ充ルノ小气球ハ大抵一
百箇ニシテ足り○小气球ヲ囊ニ入レ而メ輪ヲ
貫テ囊口ニ接スル線ヲ引キ以テ其口ヲ密閉シ
テ小气球ノ地ニ落ルヲ防ク○爾後囊口ノ四線
第七圖ノ如シト一線トノ合際ヲ緊紮シテ之ヲ
氣中ニ放ハ其自重極メテ輕々ナル力故ニ風ニ
隨テ直ニ湊ニ至ル○已ニ此ノ如クスレハ濱汀
ニ在ルノ人囊口ノ線ヲ得ナリ是ニ至テ直チニ
舟中ノ人ト口ト誅ヲ線ノ一端ニ固着シ以テ舟
ヲ海濱ニ着セシム此術此ノ如ク簡約ナルヲ以

テ世周ク之ヲ行フニ至リ是壘ニ舟人ヲ救フニ
便ナルヲミナラス其荷物ヲ損セサルニ亦益アリ
リ
コシケールボームノ發信セル消息球コバルドシカ
ノ鴻益亦爰ニ記セザルヲ得ス○第十圖ハ氣球
ノ管ヲ戴ク者ナリ管中鉄線若ハ銅線ヲ接スル
紙葉ヲ挿入ス○此法ニ因テ紙葉ヲ球内ニ入レ
而メ接スル所ノ鉄線ヲ引出ス○尋テ後チ吹
テ氣ヲ球ニ充テ管ヲ去リ而メ之ヲ氣中ニ放チ
或ハ之ヲ水上ニ投ス○此消息氣球ノ緊要ハ
船埠頭ニ乘シテ將ニ覆テントスルノ時其濱ノ
住者ニ便リシテ船中ノ景況ヲ知ラシメ且ツ此

際船中已ニ行フノ救法ヲ告ルニ便ナリ加之事
アリテ船洋中ニ巡行シ或ハ舟子ノ未タ嘗テ見
聞セザル濱ニ臨ムノ時此法ヲ行テ消息ヲ其濱
ニ通スルヲ得ヘシ○此消息氣球氣中ニ走ル極
テ速ナリ微風靜然ノ時ハ四分時ニシテ一時行
ク走リ風波ノ時ハ一時ニシテ十時行ク走ル
此浮囊ノ論說ニ就テ其他各種ノ事件ヲ究ニテ
欲スル者ハ未タ我儕ノ圖說ニ因ラサルヲ免レ
ス○我ニ二ノ論說ヲ基トシテ此數種ノ浮囊ノ
久ク世ニ行レハ人各欲スル所ニシテ亦我輩
ノ深ク希望スル所ナリ且ツ我本國ト處々ノ海
濱トニ起ル年々ノ奔濤其不幸ノ多モ此術ヲ行

ハ必ス應ニ其半ヲ減スヘシ○此方法ヲ行テ九
死ヲ一生ニ回ユス者少ナシトセズ是救法社ノ
誇説ノ由テ起ル所ニシテ而メ此方法ノ我知ト
異知トニ論ナク必ス應ニ瘳セサルヘキ所以ナ
リ

此浮囊ノ世ニ稱用セララル、ニ由テ其價七倍ヲ
ニ高ニ至ントスルヲ粉禦セン為メ其通價ヲ卷
末ニ附セサルヲ得ス○圓形浮囊(第一圖)ハ其價
七七ギエルデ金積ノ各々法詠ニ重譯ナリ方形浮囊
(第二圖)モ亦七ギエルデカハニドハ(第四圖)八十
ギエルデベイリフヘイヅヘス止(第五圖)八十八ギエル
デシロツデングブートシ(第六圖)及七第七圖(八十八乃至

三十六)ギエルデシトレイフハルナス(第八圖)ハ六
十乃至八十ギエルデシ線キ風筆(第九圖)ハ三十
五ギエルデシ其大ナル者ハ六十ギエルデシ消息氣
球(第十圖)ハ八十ギエルデシトス



Kitasato Memorial Medical Library